

五常

編集発行
コミュニティ
協議会
広報委員会

人口
7,553人
世帯数
2,956世帯
平成24年12月1日

災害時に発揮される近所の力（地震に備えよう）

2011年3月11日の東日本大震災の惨状をはつきりと憶えています。1995年1月17日の阪神・淡路大震災の記憶が少し薄れてきた方もあるかもしれません。しかし、この災害が私たちに与えてくれた多くの教訓を今一度振り返り、地震災害などへの備えを確実にすることが被害を最小限にすることにつながります。

枚方市でも地震はある

枚方市には生駒断層帯に属する7つの活断層が確認されており、五常校区の近くにも枚方撓曲（とうきよく断層）の上にある堆積層が屈曲している部分と呼ばれる活断層があります。生駒断層帯地震が起きると、枚方市では震度5強以上で、約4万2千棟の建物が全半壊し死傷者は約5千5百人、罹

災者は16万人を超えると予測されています（枚方市地域防災計画）。

近畿地方南方の太平洋海底を震源とする東南海・南海地震はいつ発生してもおかしくないとされています。



頼れるのは自分、家族、近所

地震などの大きな災害が起こったときには役所や消防・警察なども被災することから、消防隊などの公的な救援活動はどうしても遅れます。阪神淡路大震災において、家屋の倒壊などによ

る生き埋めや閉じ込められ救出された生存者のうち、出動した救助隊に救出された人はわずか2%にすぎません。多くの人は自力または家族や隣人などの地域住民によって救出されました。

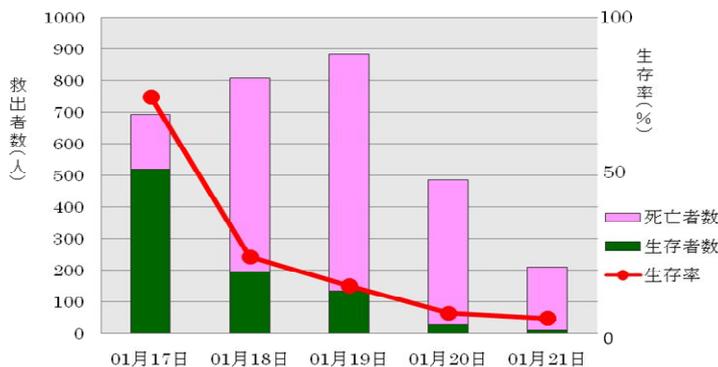
生き埋めや閉じ込められた際の救助

誰が	割合 (%)	自助・共助・公助の別
自力で	34.9	自助 66.8%
家族に	31.9	共助 30.7%
友人・隣人に	28.1	
通行人に	2.6	公助 1.7%
救助隊に	1.7	
その他	0.9	

(日本火災学会：1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書)

また、救出者中の生存者の割合は時間とともに小さくなり、震災当日（1月17日）は約75%、二日目は約24%、三日目は約15%、四日目には約6%と激減したことが報告されています。救出者のピークは三日目ですが、生存者は当日が最も多かったです。

救出者中の生存者の割合の推移



これらのことから、被害を最小限に抑えるためには、地震災害が起きたあとの早い段階、まだ公的な救援活動が十分ではない段階での救助が不可欠であることがわかります。

大災害が発生したら、自分の命は自分で守る「自助」の行動や自分たちの地域は自分たちで守るという「共助」の取組みが大変重要です。災害発生時に頼りになるのは自分、家族、近所の人、地域の人なのです。

自助・共助・公助とはどんなこと でしょうか？

◎自助 (じこじよ)

「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。自宅を安全な空間にすることは自分にはできないことです。地震の揺れの中で自分の身を守ることや、揺れがおさまったとき、自分の目の前にある火災を最も早く消すことができるのは自分です。



けがをした家族の出血を、最も早く止血できるのは自分です。

自分の手で、自分・家族・財産を助ける備えと行動を自助と呼びます。

◎共助 (きよじよ)

「わがまちは、わが手で守る」これが、地域を守る、最も効果的な方法です。そして、地域を守ることは、自分を守ることです。

地震の揺れがおさまり、自宅が無事であったとしても、隣の家から出た火を放っておけば、自分の家も燃えてしまいます。隣の家の火も消すことが、自分の家を守る、唯一の方法です。

自分が生き埋めになったとき、それに気付く、救出活動を始めてくれるのは誰でしょうか？

震災のような広域災害では、警察や消防なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。被災地の外からの応援の到着には時間がかかります。近隣のみなさんが救出してくれるのを待つほかありません。救出活動も消火活動も、早く始めるほど、そして、多くの人が参加するほど、被害を小さく抑えられます。



災害時に円滑に協力するためには、

ふだんからの交流が大きな力になります。こうした、近隣のみなさんと協力して地域を守る備えと行動を、共助と呼びます。

◎公助 (こうじよ)

市役所を始め、警察・消防・府・国などの行政機関、電気やガス、交通機関などのライフライン各社を始めとする公共企業、こうした機関の応急対策活動を、公助と呼びます。各機関とも、災害の発生からできるだけ早く、すべての能力を応急対策活動にあてられるよう備えています。

自助・共助・公助の連携

自分を中心と考えると、震災の直後自分を守るのは、自助の力です。自分ひとりでは対応できない状況になったとき、頼ることができるとは、共助です。それは同時に、自分が可能ならば共助に参加する意識が前提となります。

公助が活動を始めても、その援助の手が、円滑に私たち一人ひとりに届くためには、共助との連携が効果的です。こうした連携が、地域、そして自分の

被害を最小限に抑え、早期に復旧・復興するために必要なことです。



自主防災組織

いざと言う時の助け合いのためには、日頃からの交流が大切です。お互いの顔を知っていることが安否確認の基本となります。

各自治会や理事会では防災担当や、防災担当部会を組織されています。これが最も基本的な自主防災組織であり、共助の担い手です。

さらに、校区全体の共助を推進するための組織として五常校区自主防災会があり、校区内の5カ所に防災倉庫を設け、防災用備品を保管しています。また、毎年五常校区コミュニティ協議会と協力して「防災フェスティバル」や防災研究会を開催して、校区のみなさんの防災への関心を高め、自分の身は自分を守るための行動の普及に努めています。

第四回五常文化祭を開催

五常校区コミュニティ協議会は「五常の四季を楽しみ、安心安全なまちづくり」の一環として第四回五常文化祭を10月28日(日)に開催しました。



作品を鑑賞する来場者

出品していただいた皆様や、雨にもかかわらず熱心に鑑賞していただいた皆様の熱意により、成功裏に実施できたことに感謝申し上げます。

今回の文化祭では、校区の皆様のご絵画や手作り作品、昨年に引き続き出展いただいた第四中学校漫画部や聖徳園グループホーム敬愛の皆さんの作品のほか、六香クラブから活動を紹介する写真も出展していただきました。いず

れの作品も力作で、見る人の心に響くものでした。当協議会も五常の四季を楽しむ行事や防災フェスティバルの写真を展示し、協議会の活動を紹介いたしました。

手作りワークショップや作品販売コーナーにできた出展者と来場者の皆さんとの和やかな歓談の輪が印象的で、文化の香りの高い一日でした。

これからも皆様とともに、「五常文化づくり」を着実に進めてまいりたいと思います。ご協力をいただいた実行委員の皆様、ご支援をいただいた各自治会・理事会、ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



手作りコーナーの人の輪

合同防災研修を実施

近い将来確実に起こるとされている

「東南海・南海地震」や、枚方市内を通過する生駒断層帯による地震に対する備えが重要とされていますが、具体的にどのような準備をしたらよいのかが分かりにくいのが実情だと思われま

す。五常校区コミュニティ協議会では自治会(理事会)の責任者や防災担当者及び専門組織の責任者の皆様等を対象に防災や減災に関する知識を高めていただくことにより、五常校区の地域防災力の向上を目指す研修として、兵庫県立「人と防災未来センター」の視察を11月11日(日)に実施しました。

人と防災未来センターは阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に継承するために設置されたもので、地震のすさまじさの疑似体験や災害の状況や被害軽減方策などに関する情報等を展示しています。

当日は自治会等関係者15名、専門組織から2名、コミュニティ協議会役員7名の総勢24名が参加し、各種の展示や映像をはじめとする資料を2時間以

上かけて熱心に視察し、防災の重要性を再確認いたしました。



人と防災未来センター視察を終えて

六香会では、今回の研修で人と防災未来センターから、個人ができる防災活動に関する資料を収集され、各戸に回覧で周知し、地域防災力の向上に努めておられます。

また、八香会でも同センターの減災グッズの備えるためのチェックリストをコピーして各戸に配布されました。今回の研修会をこのように活用していただいていることに、心から感謝申し上げます。



平成24年度地域防災推進員育成研修会に参加

枚方市では地震などの災害発生時に住民の命を救うのは住民の力が大きいことから、地域における災害対応能力の向上が災害による被害の軽減につながる自主防災活動の充実強化に力を入れています。この研修は地域において防災活動を支援できるリーダー的人材を育成するために、平成22年度から実施されているものです。

研修では救助資機材の取り扱いや応急手当、応急搬送、初期消火などの実技訓練や、防災対策に関する基礎的な知識を習得する講義を受講することとなつています。2日間のカリキュラムを全て受講すると「枚方市地域防災推進員研修修了証」が授与され、地域において、「二人ひとりの防災対策（自助）」の重要性を普及する活動を行うとともに、いざと言う時には自助・共助の精神の下、人命救助や応急消火等を行うことが期待されます。

枚方市は市域全体で500人の地域防災推進員を育成することを目標として取り組んでいます。

今年度の研修には五常校区から4名が参加し、全員が無事研修を修了しました。過年度の修了者を含め、校区の地域防災推進員は6名となりました。

この研修会は来年度以降も実施されますので、関心のある方は是非参加してください。（広報「ひらかた」等でも周知されます）



今後の行事のお知らせ

第23回とんど祭り

第23回とんど祭りを来年（平成25年）1月13日（日）に五常小学校運動場において開催します。今回も午前10時頃から正午頃までの予定。点火後、御神酒、ぜんざい、焼き芋、豚汁などの振舞いも予定しています。

現在各自治会に実行委員の選出をお願いしていますので、多くの方のご協力をお願いします。実行委員会は12月

22日（土）午前中に五常小学校の体育館2階会議室で開催する予定です。



昨年度のとんど櫓

平成24年度防災フェスティバル

今年度の防災フェスティバルは平成25年3月3日（日）に開催を予定しています。

地震の心得八か条（千葉県防災ポータルサイト）

1. 耐震化 家具を固定し ひと安心
2. 自宅にも 勤務先にも 水食料
3. 日ごろから 家族で確認 避難場所
4. あ！地震 まず身の安全 つぎ消火
5. 助け合い 隣近所で 救出救護
6. 落ち着いて むやみに動かず 情報把握
7. 171 伝言板で 安否確認
8. 避難前 ガス栓・ブレーカー 確かめろ

編集後記

昨年3月11日以降、地震が頻発し日本列島が環太平洋地震帯にあると、昔習ったことを思い出しています。地震を防ぐことはできませんが、備えをすることによって、その被害をすこしでも小さくすることはできそうです。

東南海・南海地震は近い将来必ず起きると言われていますので、今号と次号では、防災に関する情報をお届けします。

今号の1～2面の記事の作成にあたっては、千葉県、東京都渋谷区、坂出市のホームページを参照しました。イラストは内閣府の「みんなで防災のペーじ」及び枚方市自主防災組織ネットワーク会議が作成した自主防災組織活動マニュアルから引用させていただきました。（M）

